

Apprenons le français à Tsukuba et accédons au monde !
筑波大学でフランス語を学び、世界へ羽ばたこう！



フランス語学習

検定試験 語学研修・留学



Été 2014



筑波大学 外国語センター
フランス語セクション

検定試験



仏検

実用フランス語技能検定試験(仏検) DAPF

日本の学習者を対象として、文部科学省の後援を受け公益財団法人日本フランス語教育振興協会が実施するフランス語検定試験。

30年を超える伝統と実績を持ち、日本社会で広く認知されています。

毎年2回、春・秋に実施されます。

5～3級は筆記試験のみ、準2級以上は筆記試験合格者を対象に口述試験が課されます。

日々の学習のバロメーターとして活用することをお勧めします。

*筑波大学では仏検団体受験申込受付などの受験支援を行っています。(詳しくはフランス語セクションHPをご覧ください。)

7つの級の内容と程度

1級: フランス語マスターへ(フランス語を使う職業で即戦力となる高度な能力を身につけている。)

学習時間600時間以上

準1級: ビジネスレベルの実力(様々な分野についてのフランス語を理解し、かなり複雑な事柄も表現できる。)

学習時間500時間以上

2級: フランス語が「使える」(日常生活に必要なフランス語を理解し、かつ的確に発信することができる。)

学習時間400時間以上

準2級: 一歩進んだフランス語(基本的な運用力を身につけ、簡単な質疑応答ができる。)

学習時間300時間以上

3級: 基礎の総まとめ(基本的なフランス語を理解し、簡単なフランス語を聞き話すことができる。)

学習時間200時間以上

4級: 日常のフランス語(基礎的なフランス語を理解し、平易な内容の会話ができる。)

学習時間100時間以上

5級: フランス語への入り口(初歩的なフランス語を理解できる。)

学習時間50時間以上

■ ヨーロッパ言語共通参照枠とのおよその対応関係

仏検級	DAPF niveau	およその対応レベル niveau CECRL correspondant (approximatif)
1級	1 kyu	C1/C2
準1級	jun 1 kyu	B2
2級	2 kyu	B1
準2級	jun 2 kyu	A2
3級	3 kyu	A1
4級	4 kyu	
5級	5 kyu	

日本フランス語教育振興会(APEF)

<http://apefdapf.org/>

の資料より



TCF (Test d'Évaluation de Français)

パリ商工会議所が実施するフランス語能力試験。

900点満点のスコアと7段階のレベルで評価します。フランス留学時にフランス語能力の証明として認められる場合があります。

試験は全150問、読解テスト、リスニングテスト、文構成・語句テストの3部門に分かれています。解答は全てマークシート方式です。

日本では年3回、日仏文化協会(東京)などで受験できます。

<http://www.ccfj.com/talk/tef/>



DELF (Diplôme d'Études en Langue Française) DALF (Diplôme Approfondi de Langue Française)

フランス国民教育省が授与するフランス語能力の公認資格試験。

世界中で広く認知されており、フランス語圏の高等教育機関への留学時に参照されます。(DELF B2またはDALFの取得者は、フランスの大学に登録するための語学試験を免除されます。)

欧州言語共通参照枠(CEFR)が定めた6段階のレベルに対応し、一度取得すれば無期限有効でグローバルに通用する資格となります。

受験者は以下の4つの言語能力が問われます： 聴解/読解/文書作成/口頭表現。

日本では、年に2回東京・関西のアンスティチュ・フランセなどのフランス文化機関で実施されます。

アンスティチュ・フランセ関西-大阪DELF・DALF試験管理センターのウェブサイトにて詳しい試験内容と出願要綱を案内しています。

http://www.calosa.com/delfdalf/accueil_jp.htm

＊筑波大学では2014年秋の受験支援を行います。(詳しくはフランス語セクションHPをご覧ください。)

欧州言語共通参照枠等級	DELF / DALF	言語使用者		学習時間の目安
C2	DALF C2	熟達した言語使用者	熟練	1000時間以上
C1	DALF C1		自主的運用	800-950時間
B2	DELF B2	自立した言語使用者	上級	550-650時間
B1	DELF B1		中級	350-400時間
A2	DELF A2	基礎段階の言語使用者	初級	150-200時間
A1	DELF A1		入門	60-100時間



TCF (Test de Connaissance du Français)

フランス国民教育省が認定するフランス語能力テスト。

受験者にはテストの成績を記載した証明書(有効期間2年)が発行されます。(フランスの大学に入学を希望する際の語学力評定として認められます。)

試験は選択方式80問、聴解(30問)、語彙・文法(20問)、読解(30問)の3分野で構成されます。

日本では年に数回フランス文化機関などで受験できます。

http://www.calosa.com/delfdalf/tcf_jp.htm

比較文化学類2年 竹下光さん（2012年秋 5級合格、2013年春 3級合格）

私が最初に仏検を受けた動機は、モチベーションの維持です。大学でフランス語を勉強し始めて半年、忙しさもあってフランス語学習に対するモチベーションが低くなりつつありました。しかし、せっかく2年間もかけて勉強するのだから、フランス語が使えるようになりたいと思い、仏検を受けることにしました。わざわざお金を出して試験を受ければ、その費用を無駄にしないためにもしっかりと勉強するだろうと考えたのです。

仏検の勉強は、参考書を買って問題を解いたり、教科書の復習をしたりしました。外国語センターのメディアライブラリー内には、フランス語学習のための問題集や、過去問等がそろっているので、お金をかけたくない人にはお勧めです。また、仏検の過去問はインターネットでも閲覧することが出来ます。

こんな動機で受け始めた私も、今では3級を受験するまでになりました。仏検は本当に気軽に受けられるので、とりあえず受けてみてはいかがでしょうか。



比較文化学類3年 松下令奈さん（2012年秋 3級合格、2013年春 準2級受験）

仏検は3級を2年次の秋季に取得し、準2級を3年次の春季に受験、只今その結果を待っています。受験に至った大きな理由は、大学で培ったフランス語のスキルを、検定という目に見える形で残したいというものでした。また、腕試しや目標づくりといった側面もあり、仏検を意識することで、普段の学習に、より身が入るようになったと感じます。対策として、公式問題集を何度も解きました。また、NHKのラジオ講座も、聞き取り能力や語彙の補強に大変有効でした。

個人的には、問題集を解くだけではなく、小説などのテキスト、ニュース、歌曲といった生きたフランス語に触れる機会を積極的に持つことも、フランス語の力を高めるためには重要であり、さらにはより実践的に、楽しく学べる手段であると考えています。



人文学類4年 岩崎絵梨香さん（2012年春 準2級合格、2013年春 2級受験）

私が仏検を受けた理由は、1つは単純にスキルアップのためです。いい目標設定になりますし、検定料を払うとなると勉強しない訳にはいきません！そしてもう1つは、自分のフランス語力を示す指標が欲しいと思ったからです。

検定対策のために、私は各級で1冊参考書を購入しました。仏検を受けるにあたって、文法知識で必要なのは1年生で習う初級文法程度で、あとは『単語・熟語表現を覚えること』と『リスニングに慣れること』です。どちらも1冊の本・CDで繰り返し練習すれば十分な力がつくと思います。ですがたくさん問題を解きたいという方にお勧めしたいのは、メディアライブラリーの活用です。教本を何冊も買うとお金がかかりますが、メディアライブラリーは…無料です！リスニングのCDも聞き放題です。是非訪れてみてください。

私は仏検を受けたことで、就職活動での面接の話の種になることもありました。資格は能力だけでなく、物事に取り組む上での熱意のアピールにもなります。語学力に磨きをかけるため、就職のため、フランスに行くため、なんとなく、どんな理由でも構わないと思うので、興味のある方はぜひ挑戦してみてください。



人文社会科学部 現代語現代文化専攻1年 猪股無限さん（2010年 DELF A2合格）

私は大学に入ってからフランス語を勉強し始め、2年でDELFのA2を受験しました。その頃はフランスに留学することはあまり考えていませんでしたが、せっかくフランス語を勉強するならば、フランスで認知度の高い試験にも挑戦してみようと思ったからです。それまでは仏検を中心に勉強していたので、中級まででは疎かになりがちな作文、口頭表現が大きな難関でした。また、聴き取りも仏検のように何度も読んでも聞けない上に、スピードも速いのですが、聴き取りは慣れだと思い、問題集についているCDを何度も聞いたり、（内容はよくわかっていませんが）RFI（フランスの国際ラジオ放送）のネットでの放送を聞いて、まずはDELFのスピードに慣れることを目標にしました。作文と口頭表現は、添削や練習をしてくれる人が身近にいる大学生のうちに積極的に対策することをオススメします。間違えて直してもらえないとわからないので、とにかく自分の知ってる言葉で表現してみることが肝心です。そのためには、まず少しは蓄えがないと表現できないので、文を音読して覚えてみるのがいいのではないかと思います。

最後に、仏検、DELFに共通して言えることですが、完璧を目指さないことが一番大事だと思います。試験は満点でなくても通りますし、フランス語を外国語として学んでいる以上、母語話者と同程度に話すことは難しいことです。語学はとにかく続けることが重要ですし、完璧なんてそうできるものではないと割り切って、気楽に取り組んだ方が長続きして良いのではないのでしょうか。



国際総合学類 4年次3年 杉田翔平さん（DELF B1 合格 2013年春 DELF B2受験）

私がDELFを受験するきっかけになったのは、フランス留学（フランスシュコンテ大学）がきっかけでした。

3か月ほどフランスの語学学校に通い、ほとんど一からスタートしたフランス語が終わりに近づくころにはめきめきと上達するのが実感でき、それを試験で試してみたいと思ったからです。この時受けたのはB1で、参考書を買って予想問題をただひたすら解いていました。リスニングはインターネット配信のFrance2などを聞いて練習しました。無事合格した後に専門分野を学びたいと強く思うようになり、再び1年間のフランス交換留学をし先日帰国しました。つい最近B2を受験しましたが、こちらに関しては留学の際の日常でのやり取りの延長で臨みました。

フランス語を勉強している方や将来フランス留学を考えている方には発音しながら覚えていくことをお勧めします。フランス語は英語と違い、大学入学してから始める場合が多いと思います。手だけでなく口も使って体に染み込ませるのが大変でも一番の近道ではないかと思います。フランス人は英語が話せない人が本当に多くいます。そんな人たちと話せるようになれるのは素敵なことだなと感じています。



語学研修・留学

生きたフランス語を学ぶために海外語学研修や留学は最適の手段です。たとえ短期間であっても本物のフランス語の世界を体験することは、皆さんの語学力を大きく伸ばすとともに、人生観・世界観にも大きな影響を与えることでしょう。

大学間国際交流協定を利用して有利な条件で留学することができます（単位互換制度、授業料相互免除、独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度に申請可能など）。筑波大学はパリ第13大学、フランシュ・コンテ大学をはじめフランス・フランス語圏諸国の約10か所の大学・研究機関と国際交流協定を結んでいます（所属する学類・研究科によって利用できる協定や条件が異なる場合があります）。

渡航希望者の相談には随時対応しますので、お気軽にフランス語教員へ声をかけてください。

以下のWebサイトに詳しい情報がありますので、参考にしてください。

- * 筑波大学「海外留学を希望する方へ」 <http://www.tsukuba.ac.jp/global/go-abroad.html>
- * 筑波大学グローバルcommons <http://g-commons.global.tsukuba.ac.jp>
- * 協定校情報 <http://g-commons.global.tsukuba.ac.jp/partner/universities/index/?region=FR>
- * 独立行政法人日本学生支援機構 海外留学情報ページ
国別の留学情報、語学研修についての情報、留学のための奨学金情報
http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info.html
- * Campus France-フランス政府留学局・日本支局
フランスの高等教育機関への留学推進、国際学術交流のためのフランス政府公式機関
<http://www.japon.campusfrance.org/>
- * スイス高等教育機関学長協議会
スイスの高等教育機関への留学情報。[フランス語・ドイツ語・イタリア語・一部英語]
<http://www.crus.ch/homenavigation/home.html?L=2>
- * Study in Belgium
ベルギー・フランス語共同体対外関係総局のウェブサイト[英語・フランス語]
<http://www.studyinbelgium.be/>
- * Québec（ケベック）で勉強する
ケベック州政府在日事務所サイト
<http://www.gouv.qc.ca/portail/quebec/international/japon/etudes/>



フランシュ・コンテ大学



パリ第13大学

社会学類4年 鴨脚まりなさん (2013年春～EC Montreal外国語学校留学中)

大学3年生の夏にオーストラリア・ニュージーランド・アメリカの人々と1か月間ヨーロッパを周遊してから、彼らとともって円滑にコミュニケーションをはかりたいと思うようになり、そこから語学留学することを決意しました。留学先の候補としてはいくつかの国を考えたのですが、その中から最終的にカナダを選択した理由はバイリンガルな国だからです。この機会に英語だけでなく、フランス語も学べたら自分の教養を深められるのではないかと考え、短期間ではありますが、フランス語を学ぶことにしました。

こちらに来て早2か月が経ちますが、モントリオールは実際にバイリンガルな都市であると実感しています。街中の広告やレストランのメニューはフランス語表記ですが、どの店員も英語を話すことができ、フランス語での対話に困れば英語に切り替えてくれます。

また、学校の生徒にはフランス語・英語・あるいは両方を学んでいる人もおり、フランス人が英語を学び、イギリス・アメリカ人がフランス語を学んでいるという、おそらく他の国ではなかなか見られない光景を目にすることができます。ときにはカナダ人がフランス語を学んでいるという場合も見受けられます。

英語とフランス語の両方を学びたい人にとって、モントリオールは魅力的な街だと思います。



人文社会科学部研究科 文芸言語専攻 石田寛直さん (2012年12月～2013年3月 フランシュコンテ大学)

私は2012年12月から2013年3月の三か月間、フランス東部の街ブザンソンにあるフランシュ・コンテ大学に留学しました。私にとっては留学はおろか初の海外渡航でした。大学の講義と生活面の二つについて、簡単に私の経験を述べたいと思います。

受講するにあたって求められる能力は様々ですが、留学初心者の方にとって一番大変だったことは聞き取りでした。この点については、先生の話をできるだけメモに取ることが最初は重要だと思います。聞き取りとメモ取りという並行作業をしていると自然と頭が集中してきます。また授業後には話の全体像がつかめているか、何がテーマであったのか、という点を反省しました。聞き取り自体は時間の問題とも思います。三か月間でも意外と慣れてくるものです。

次に生活面です。日常生活では講義とは逆に能動的な言語能力が要求されます。スーパーの買い物も、煙草を買うのも、ホテルの受付も、何かしらの形で話すことが要求されます。この時ほど語学の教科書での練習が重要に思ったことはありません。簡単な文でもいざという時は出てこないものでした。

単純に滞在するだけならば旅行でも十分かもしれません。しかし、留学とは向こうで生活するという点でもあります。生活とは現地の一員になることです。こればかりは机の上ではどうしようもありません。是非勇気を出してフランスに行ってみてください。



人文社会科学部研究科 文芸・言語専攻1年 大道果南さん (2011年7月～2012年3月、2013年1月～2013年3月 フランシュコンテ大学)

「英語圏以外の国で長期留学してみたい！」これがフランス語を始めた最大の理由だった私。国際舞台で働くなら英語＋仏語を話せるとベストかも、そんなことを思い学部1年からフランス語を始めました。ことばが使用される場所に行き自分で文化を吸収したい、そう思い続けたさき、4年生の時に仏留学のお話を頂き1年ほどフランスに行くことにしました。場所はブザンソンという緑豊かな田舎町です。3年ほど仏語を学び渡仏しましたが到着直後は話のスピードについていけない、語彙が不足している、などなど困ることはたくさんありました。ですが到着した空港から色んなフランス人に助けられ、時間をかけて一緒に食事をとったり、車できれいな景色を見に行ったりしてフランスの良さを体感しました。

留学当初は言葉ができないので大学の授業も苦しいなと感じてしまっていたのですが、どうしようもない状況にいたとき、親身になって相談に乗ってくれる人たちがいました。またアフリカや南アメリカからの留学生とも出会い多様な価値観に触れ、人としてグッと幅が広がったように思います。異国では感じてこなかった刺激を受けることで知らない自分に出会いますし、許容度も試されます。フランス人は一般的に日本人よりもたくさん議論するのでそういう異文化体験も楽しめます。



人文社会科学部研究科 文芸・言語専攻1年 小川紋奈さん (2010年度ジュネーブ大学)

私はスイスのジュネーブ大学に大学3年次の後期から1年間留学しました。フランス語は大学入学後から始めたのですが、海外で生活できる機会は卒業したらなかなか持てないと思い、留学を決意しました。

なぜフランスではないのかというと、ジュネーブには多くの国際機関が集まっていること、なので多様な国籍の方がおり様々な文化に触れられるだろうこと、フランス語だけではなく英語も使う機会が多いことなどが挙げられます。

大学では、留学生向けのフランス語・フランス文化コースで、écritやoral、音声学、文化などを学び、講義は、フランス語学や日本語を学ぶ授業に顔を出しました。休み時間や休日は大学に隣接している公園の芝生や湖でのんびりしたり、長期休みはヨーロッパ各国を旅行したりしました。住居はアパートに、4人1室で住んでいました。一緒に料理してご飯食べたり勉強したり出かけたり旅行したりもし、親友とも呼べる友人がそこでできました。

留学中は大変なことももちろんありましたが、そんなことはあまり思い出せないくらい楽しい思い出ばかりです。私も最初は不安でしたが、なんとかなります。少しでも留学に憧れているのなら、ぜひチャレンジしてみてください。



2014 年 7 月

筑波大学外国語センター フランス語教育充実事業のご案内

以下の催しや学習支援を行います。ぜひご参加ください。

1) フランス語相談会

フランス語学習、検定試験受験、海外語学研修・留学に関する情報を提供し、個別相談に対応します。

日時：2013 年 7 月 23 日（水）～24 日（木） 各日 15:30-17:00

場所：外国語センター入り口

2) DELF 受験支援（受験料全額補助）

この秋の DELF（フランス国民教育省資格試験）を受験する方を対象に受験料の全額補助をします。15 名まで、レベルは問いません（DALF は対象外とします）。

申込期限：2014 年 7 月 26 日（土）17 時までに下記メールアドレスまで連絡してください。

*試験の日程と会場は以下のとおりです。

DELF A1, A2：筆記試験 11 月 9 日、口頭試験 11 月 9 日 アンスティチュフランセ東京

DELF B1, B2：筆記試験 10 月 12 日、口頭試験 10 月 19 日 アンスティチュフランセ東京

3) フランス語夏期集中特別講座 —DELF A1/A2 試験受験対策講座—

9 月 19 日（金）、20 日（土）、21 日（日） 各日午前 10 時～17 時 30 分（途中休憩あり）

外国語センターにて

*日本人講師、ネイティブ講師が A1/A2 のレベル別グループ指導を行います。

*自由履修の講座ですので、単位にはなりません。

*事前の申込みが必要です。

申込み方法：外国語センターのフランス語セクションHPから申込書（WORD）をダウンロードし、必要事項を記入して担当者へ送ってください。

申込み期限：8 月 30 日（土）17 時までにメール送付のこと。

4) フランス語勉強会（課外活動）

今年度 5 月から毎週木曜 18 時から有志によるフランス語勉強会を開いています。フランス人留学生を交え、シャンソンを聞いたり、短編映画を見たり、フランス語の単語を覚えるゲームをしたり・・・などなど多彩な活動を行っています。場所は 1 C306 教室。お気軽にのぞいてみてください。

8、9 月の活動はお休みで、10 月から再開します。7 月中の活動は不定期な部分がありますので、詳しくは下記メールへお問い合わせください。

5) トライリンガルデー

日本語、英語に加えてフランス語などの三つめの言語習得を目指すトライリンガル学習のためのイベントを開催予定です。日程などは未定ですので、外国語センターのポスターやHPなどでのアナウンスに注意してください。

外国語センターフランス語セクションHP：<http://www.flang.tsukuba.ac.jp/page/dir000023.html>

問合せ先（申込み先）：

フランス語連絡責任者 小松祐子 komatsu.sachiko.gt@u.tsukuba.ac.jp